

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)桜新町計画 新築工事	階数	地上6F
建設地	東京都世田谷区	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	154 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年10月 予定	評価の実施日	2026年7月1日
敷地面積	1,437 m ²	作成者	株式会社日本エーコン E 橋本 茂久
建築面積	833 m ²	確認日	2026年7月1日
延床面積	3,777 m ²	確認者	株式会社日本エーコン E 橋本 茂久

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★ 環境品質 G 環境負荷 L	標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ (kg-CO₂eq/年・m²) このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 2.6	Q2のスコア= 3.3	Q3のスコア= 3.4
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.3	LR2のスコア= 3.0	LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・世田谷区に建設される6階建の共同住宅である。 ・形態制限からなるボリューム形態を生かし、ボリュームを分節させることで、圧迫感のない周囲のスケールに溶け込んだファサードとしている。 ・外構だけでなく積極的に屋上緑化を図り、熱的な影響を軽減させている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・自然換気性能や昼光利用に配慮し、開口部が大きくとれるように計画している。 ・居室内の空気質環境に配慮し、天井裏も含めてF☆☆☆☆の建築材料を使用している。	・機能性に配慮し、各住戸に高速インターネットに対応した環境を整備している。 ・内装材や配管等の耐用性に配慮し、耐用年数の長い材料を採用している。	・生物環境の保全や良好な街路景観の形成に配慮し、接道部の緑化を図る。 ・地域アメニティの向上に配慮し、歩道状空地を設けている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・外皮の熱負荷抑制に配慮し、断熱性能は全住戸が等級4を満たす計画としている。 ・エネルギー削減に配慮し、LED照明等高効率な設備機器を導入している。	・水資源の保護に配慮し、節水型の器具を使用している。 ・汚染物質含有材料の使用回避に配慮し、発泡剤はノンフロンのものを使用している。	・CO2排出量の低減に配慮し、高効率な設備機器を導入している。 ・ゴミ処理負荷低減に配慮し、日常的に発生するゴミの種類や量の推計、分別回収を推進するための空間整備や設備を設置している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される